

育児相談サービス ご相談事例（8）

Q. 仲良しの友達が、「マイコプラズマ肺炎」で学校を休んでいます。

・事例： やま みちよさん（仮名） 11歳のお母様からご相談

11歳の子供です。

仲良しの友達が、「マイコプラズマ肺炎」で学校を休んでいます。仲良しですので、毎日一緒に通学したり近所に住んでいて家に行ったり一緒にいる時間が長く、接触が濃厚です。

主人も、年末の忙しい時期ですし、子供がうつっていないかも心配ですが、主人や私がうつらないかとっても心配です。

今から、気をつけること…例えば、手を洗うとかうがいとか、予防できる事や、うつったかな？と思うような症状や診察のタイミングとか何かアドバイスをお願いできますか。

肺炎というだけで、チョット怖いかな、と思うのもどうかとも思いますが、子供から主人に、反対に私や主人から子供にうつらないかと心配です。



回答：（看護師が回答いたしました。）

マイコプラズマ肺炎は学校や保育所、家庭内で感染します。ご心配は最もですね。

飛沫感染といわれる「咳」や「唾」で感染することが知られています。2～3週間の潜伏期間があり、感染しても発症するまで時間があります。初期症状の特徴は、頑固な咳です。咳だけでは、正確な診断は難しく、病院でレントゲン検査をして肺炎の陰影といわれる影が出る人が多いようです。

お子様の場合は、比較的熱が出ますが、感染した初めの頃は高い熱が一日中続くのではなく、一日の中で時々高い熱が出る事が多いようです。咳が続き、「風邪」の治療を受けているうちに、高い熱が続くようになりレントゲンで検査したら肺炎になっていたと言う事も有ります。血液検査でも、肺炎の特徴を示す血清検査も遅れて高い値を示すため、早期の判断が難しい事も有ります。

大人の場合は、子供に比べ短期間に検査に現われますが、子供に比べると治療期間が長引く事も有ります。大人が感染した場合の自覚症状は曖昧ですが、微熱と倦怠感、咳が長期間続く事も有ります。そうこうしているうちに熱が出始め、決まった時間に38度から39度近い熱を出すようになります。

